

詩情あふれる高原の城下町 A poetic highland former castle town

# 信州 小諸

## 城下町 & 文学の めぐり道 map

- 観光ポイント ● 歴史ポイント
- 代表的な歴史建築 (★ 食事処等)
- ▲ 眺望ポイント ● 公園
- 江戸～昭和初期の商家・蔵 (旧街道 辺)
- ⋯⋯⋯ 城郭・武家地を囲む古い石垣
- 天然の谷をいかした空堀 ⋯⋯⋯ がけ
- WC トイレ ● 無料休憩所 無料休憩所
- P 駐車場 P 無料駐車場
- 旧北国街道 (ほっこくかいどう) ●●●●●● おすすめの散策路



小諸城趾・懐古園の石垣

### ●●●●●● おすすめ回遊コース (1時間半)

(歴史ポイントをつなぐコース。歩く時間のみなら、40分程度です。)

小諸駅 → 小諸本陣 → 本陣問屋 → ほんまち町屋館 → 光岳寺 →  
 酢久商店 → 海応院 → 藤村旧居跡 → 大塚酒造 → 大手門 → 小諸駅  
 ↓ (ちょっと足をのばして与良までどうぞ！)  
 酢久商店 ~ 高濱虚子記念館 約10分

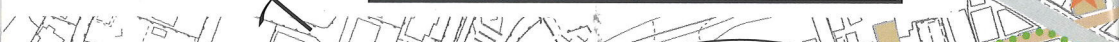
駅からの距離 本町エリア (町屋館) 7分、荒町エリア (海応院) 10分、  
与良エリア (虚子記念館) 20分

タクシー会社 (小諸市外局番0267) 松葉・22-2323 / 小諸観光・22-2424  
第1交通・22-4141 / ニュー交通・22-0015

観光のご案内 観光案内所 0267-22-0568



0 50m 100m 200m



詩情あふれる高原の城下町 A poetic highland former castle town

# 信州 小諸

## 城下町&文学のめぐり道 map

- 観光ポイント ● 歴史ポイント
- 代表的な歴史建築 (★ 食事処等)
- ▲ 眺望ポイント ● 公園
- 江戸~昭和初期の商家・蔵 (旧街道 辺)
- 城郭・武家地を囲む古い石垣
- 天然の谷をいかした空堀 ■■■■■ がけ
- WC トイレ ● 無料休憩所 ● 無料休憩所
- P 駐車場 ● 無料駐車場
- 旧北国街道 (ほっこくかいどう) ●●●●● おすすめの散策路

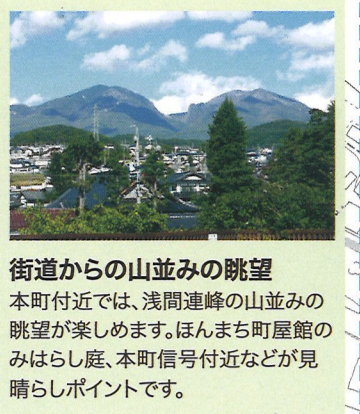
●●●●● おすすめ回遊コース (1時間半)  
 (歴史ポイントをつなぐコース。歩く時間のみならず、40分程度です。)  
 小諸駅 → 小諸本陣 → 本陣問屋 → ほんまち町屋館 → 光岳寺 → 酢久商店 → 海応院 → 藤村旧居跡 → 大塚酒造 → 大手門 → 小諸駅  
 ↓ (ちょっと足をのびして与良までどうぞ！)  
 酢久商店 ~ 高濱虚子記念館 約10分

駅からの距離 本町エリア (町屋館) 7分、荒町エリア (海応院) 10分、与良エリア (虚子記念館) 20分  
 タクシー会社 (小諸市外局番0267) 松葉・22-2323 / 小諸観光・22-2424  
 第1交通・22-4141 / ニュー交通・22-0015  
 観光のご案内 観光案内所 0267-22-0568



### せせらぎの散歩道 (コースタイム20分)

六供(ろくく)、田町は、街道を取り巻く寺町。中沢川に沿って歩くと古い町並み、緑や石垣、レトロな橋のデザインが楽しめます。  
 長屋門の町並み昔は、この門の中に農具等を入れていた。



### 本町・藤村

本町は、古い商家の町屋、ギャラリー、呉服のぞいて歩く楽しさも島崎藤村が住んでいた作品にもこの界隈のこ



●北国街道ほんまち町屋  
 大正時代の味噌・醤油の蔵コミュニティ施設。国有有形には、奥の庭から浅間連峰を。開館時間 4月~10月 11月~3月 10:00~16:00 入館無料 / Tel: 0267-25

### 大手門・本陣エリア

駅周辺は、江戸時代は小諸城内でした。駅のすぐ近くには、城の入り口である立派な大手門が残されており、その周辺の城址は大手門公園となっています。大手門公園を北側に進むと、北国(ほっこく)街道の通りに出ます。



●大手門 (国の重要文化財)  
 江戸初期に仙石秀久が築造。1階は堅牢な門、2階は書院風のつくりで、桃山時代の気風を感じる。2階には、城と門にかかわる展示がある。2階公開期間: 4月上旬~11月上旬の土日祝日 8月は平日も公開 10:00~15:00(無料)

江戸時代、佐渡の金た北国街道沿いには施設である「問屋場」られています。また「本内に移築復元されてが揃っている町は、全



\*修復工事中 ●小諸宿問屋場  
 問屋場とは、宿場をし、人や馬を手配しこれは江戸後期の例を見ないほど立

鍋蓋(なべぶた)城跡。この一画は、戦国時代に作られた小諸初の平山城の跡。江戸時代は、家老の屋敷で、両側には町人地との境の木戸があった。街道を曲げて、城に入りやすくした構造は城下町ならではの。昭和になって、城跡を突っ切って道を通した。

古い時代の街道(東山道)で、歴史的な雰囲気がある。江戸時代に北国街道が整備され、表通りに街道が移った。

アンワイナリー&ステイ  
 小さなワイン醸造所。ワイン&シードル販売。有料試飲可。土日祝日営業(不定休) 11:00~16:00 TEL0267-22-1518

浅間嶺の月涼しけれ影を追ふ(白田亜浪)  
 白田亜浪は、新町に生まれ、新町に育ち、新町に没した俳人であり、青木神社の



市の名勝 小諸城址 懐古園  
 全国的にも珍しい城下町より低い穴城で、藤村の「千曲川旅情の歌」に詠われ全国的に有名になりました。苔むした石垣、千曲川の眺望はすばらしく、春の桜、秋の紅葉の名所としても有名です。(料金は裏面を参照)

小諸出身の画家 小山敬三のアトリエを移築。  
 千曲川河畔に下る森の散策路

武田信玄が礎を築いた小諸城は、背後を千曲川の断崖、脇を天然の空堀(谷)で守られた、風情のある城です。

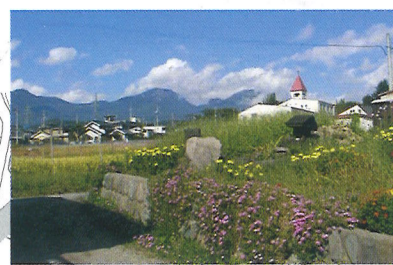
展望台からは、千曲川が一望

## 虚子の散歩道 (コースタイム20分)

高濱虚子が小諸にいたころ、朝に夕に散歩し俳句を詠んだ小径が昔の雰囲気のまま残っています。(明治時代、島崎藤村も「千曲川のスケッチ」でこの素朴な田園風景を描いています) 街道から一歩はいると、お堂や石仏、りんご畑、清らかなせせらぎにいやされる小径があります。坂の上には、虚子の愛した浅間や蓼科の山並みが広がります。

『その馬頭観世音のところから更に岐れた径を行くと、小さな流れに出る。その流れに沿って一軒の水車小屋がある。その水車小屋に住んでる人とはいつからか知合ひになつてその縁に腰をかけて話をする。その主人は炬燵の座布団を改めて頻りに「お當りなんして」とすすめてくれる。』高濱虚子・小諸雑記より

虚子の散歩道



至澤の家跡  
昔、水車小屋があり、  
虚子がよく訪れた。



禅宗の寺らしい、くの字型に曲がった威厳ある参道。境内には見どころ多し。

### 荒町・寺町エリア

お堂や石仏など庶民的で素朴な、歴史あるお寺

### 与良・俳句の町エリア

与良には大変古い時代の庄屋や豪農の屋敷が残り、坂道を登っていけば山並みの見渡せる美しい田園風景が広がっています。「虚子の散歩道」沿いには、お堂や石仏などが点在し、城下町でありながら農村のような風景を楽しめる地区です。島崎藤村も高濱虚子も、このあたりで出会う人たちの素朴な人柄を好んで作品に描いています。与良館では、今もそんな与良人に会うことができます。

### 荒町・寺町エリア

荒町には、商都を象徴するような大きな商家が点在します。山側には海應院などの歴史あるお寺が並び、大木に囲まれた寺町をつくっています。荒町銀座周辺には、レトロな建物が目に付き、昭和初期には若者の人気エリアだったことがうかがわれます。



荒町銀座の十字路は、大正～昭和初期のレトロな雰囲気。



小諸病院は、昭和6年に高原療養所の理念のもとに設立された。設計は中村與資平。「男はつらいよ」第40作の舞台となった。



● 酢久商店  
山吹味噌で有名な味噌醸造元。江戸時代の店蔵、門、屋敷が残る。ショップは、味噌の他に信州のお土産が充実。日曜祝日休み、平日8:30～17:00土曜9:00～15:00



● 小諸宿本陣主屋(サロン&ギャラリー)  
本陣とは、江戸時代に参勤交代の大名の宿舎となった施設。本来は街道沿いにあったが、平成8年にここに移築復元。式台、上段の間などに格式を感じる。■歴史資料コーナー ■手仕事ギャラリー(古布の小物、創作人形等、地元作家の作品展示販売) ■おもてなしカフェ(甘味、軽食) 9:00～17:00/木曜休館/入館無料/冬季閉館11月第3月曜～4月第2木曜/Tel 0267-24-7788



高濱虚子 (たかはまきよし)



● 虚子庵・小諸高濱虚子記念館  
虚子は、正岡子規に師事し、新派俳句の俊秀として活躍、俳誌「ホトギス」を主宰した。戦争中の昭和19年から3年1ヶ月の間、与良に疎開。この「虚子庵」に暮らし、句作に励んだ。記念館には、直筆の屏風や愛用の品々が展示されている。水曜休館/9:00～17:00 / ☎0267-26-3010 / 入館料300円(虚子庵は見学無料)

● 小諸高濱虚子記念公園・北国街道与良館(主屋)  
虚子ゆかりの商家屋敷を保存再生した公共施設。主屋は幕末の建物で、小諸城の銭蔵も移築されている。地域の人のためりばで、観光客も歓迎。火曜休館/9:00～17:00 / Tel0267-23-8040



● 駐車場ガーデン(カフェ)  
300種の四季の花を見ながら、テラス席でゆったりカフェやランチが楽しめる。地場のおいしいもの、園芸品ショップも充実。木曜定休 9:00～22:00 カフェレストラン10:00～ ＊水、日曜 18:00以降 要予約 Tel 0267-24-2525 http://www.t-garden.org/

### エリア

並み残り、骨董屋、味噌屋などがあります。場所もあり、そのとが登場します。



島崎藤村が住んでいた場所  
藤村は、明治32年から6年間ここに暮らしていました。教師をしながら創作に励んだ。今は碑が残るのみ。近くには、藤村夫人が通ったという井戸がある。



● 脇本陣の宿 糸屋(くめや)  
江戸時代、大名行列の藩の家老などが宿泊したのが脇本陣。行列が重なった時には位の低い大名の本陣となった。看板、二階手すりなど江戸の旅籠の外観をよく残し、貴人用の小屋根のついた玄関に格式を感じる。奥には、本格的な書院づくりの離れを持つ。明治以降も、商都小諸で人気の旅館として賑わった。空き家だったものを小諸市が取得、令和元年夏に旅館として再オープン。昔の旅籠での宿泊体験が楽しめる。 ■茶屋くめや(喫茶・食事はなし) / 10:00～16:00 / 火曜定休 ■宿泊は金、土、日 / 2名1室朝食付6,000円～要予約 / Tel 0267-27-1482

### 城下町めぐりスタンプ

スタンプのマークのある場所にスタンプが置いてあります。4つ集めると観光案内所でプレゼントがもらえます!

那須野整骨院 9時～17時	ほんまち町屋館 9時～17時(冬10時～16時) 月曜休館	酢久商店 日曜祝日休	高濱虚子記念館 9時～17時・水曜日休館
------------------	-------------------------------------	---------------	-------------------------

スタンプ設置施設は、年末年始休みなど都合により休館することがあります。ご容赦ください。  
プレゼント引換場所  
小諸駅 観光案内所  
TEL 0267-22-0568  
9時～17時(4-11月)、  
9時30分～16時30分(12-3月)

# 坂のまちの歩き方 ① 商家のデザインは 小諸商人の心意気



1 小山家(江戸中期)

虚子記念館の眼下の、ゆるやかな斜面にそった蒼むした美しい屋並みが小山家。裏手の田畑に向けた側には農家の蔵や門があり、敷地内に清らかな水が流れ、くろみの大木がある。田園と町の暮らしを合わせた建物、与良の魅力が伝わる建物。



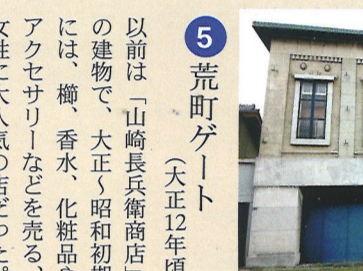
2 与良家(江戸初期)

街道から奥まで建つ四百年前の茅葺き(現在はトタンがけ)の豪農の民家。正面外観は、縁側のない古い農家の形式を伝え、土壁と戸で構成される壁面が美しい。土間や手斧仕上げの柱もそのまま残る。ご家族がお住まいなので、見学は門から見せていただくだけとしたい。



3 中吉(江戸末期)

文久三年の与良伏図では、穀屋・吉十郎とある。先代が食事処として蘇らせた。古い町屋をそのままいかしたオシャレな店内、地元の食材によるおいしい創作料理が人気。昼膳・800円、夜・金土日11:30~14:00、木金土日17:30~22:00  
Tel 0267-24-1241



5 荒町ゲート(大正12年頃)

以前は「山崎長兵衛商店」の建物で、大正昭和初期には、燻、香水、化粧品やアクセサリーなどを売る、女性に大人気の店だった。セセション風の美しい外観は、このあたりが華やかでモダンだった時代の空気を今に伝えている。敷地内には「ミルクホール」と呼ばれた小さなサロンも残る。平成29年、建物が売られて壊されそうになったところを、思い入れのある個人が買って残すことができた。現在、ギャラリー、工房などの活用方法を検討中。



20 旧磯間屋(大正初期)

この建物は、生糸と繭の問屋(小林金吾商店)として建てられた。明治時代、小諸にはいち早く製糸工場が誕生し、糸都として発展。鉄道開通後は駅周辺に生糸の問屋や倉庫が建ち並んだ。かつてはこの建物でも繭の取引をさかんに行っていたので、通り側に間口が大きく開かれているのが特徴。



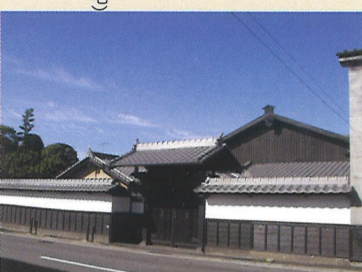
6 嶋田屋

(江戸末期・二八五年)江戸時代には藩の御用商人でもあった呉服商の高橋平四郎が建てた屋敷。高橋は明治初期に小諸の製糸業を興隆させた先駆者となったが、明治十四年のデフレで屋敷を手放し、嶋田家が買った。嶋田屋は下駄荒物の卸し商で、鉄道開通後、関東一円を商圏とし財をなした。建物は明治初期の小諸豪商の屋敷構えを伝え、主屋は低い二階に虫窓をもつ切妻、土蔵造りの立派なもの。奥には庭園がある。



4 小山家/旧庄屋宅(江戸初期)

近世に庄屋をつとめた家。江戸時代には小諸城主がとまわり訪れていたというこの屋敷には、当時のままの立派な玄関、お庭に面した座敷があり、床の間にはいざという時に殿様が身を隠すための隠し扉が今も残されている。建物の規模や、切妻屋根の破風を見せた外観、巾2間の大床を設けた客間、農家に似た部屋割りの形式などの点で、江戸時代初期の城下町の有力町人の住居形式をよく伝える貴重な建物。



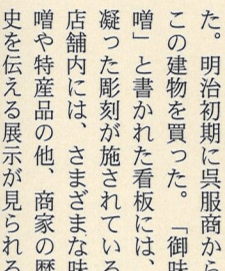
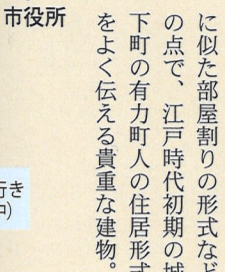
7 酢久商店(山吹味噌)(江戸後期)

江戸中期から酢・味噌醤油を醸造、関東から仕入れた畳表、かつお節、茶、塩などを長野県内に流す問屋業としても成功し、小諸藩の御用商人として藩にお金を貸して、武士に近い身分を与えられた旧家。小諸商人のリーダーとして鉄道開通製糸工場の建設などに取り組み、小諸の発展に貢献した。明治初期に呉服商からこの建物を買った。「御味噌」と書かれた看板には、凝った彫刻が施されている。店舗内には、さまざまな味噌や特産品の他、商家の歴史を伝える展示が見られる。



19 油権/竹内木材(明治四十五年)

明治二十六年に鉄道が開通し、駅周辺に問屋や倉庫が建ちはじめる。同店は、信州の山地の材木を製材し東京に出荷し、東京からも買入れ、財をなした。どっしりとした蔵造りで、銅板の戸袋など、細部にも丁寧な仕事が見られる。



## 北国街道・歴史地区の食べ処(昼営業) \*上記で紹介以外。場所は上記地図参照。

- 1 草笛本店 くるみそば・藤村そば 11:00~15:00 年中無休 ☎0267-22-2105
  - 2 水車 (グランドキャッスルホテル内) 古城そば・ざるそば 11:30~14:30 冬期不定休あり ☎0267-22-8000
  - 3 藤舟 老舗のうなぎ屋 水曜休日 11:30~14:30 ☎0267-22-5021
  - 4 寅さん 和風バイキング定食(昼) 土日祝日定休 11:00~14:00
  - 5 樹古里(きこり) ラーメン、餃子 日曜定休 11:00~14:30 ☎0267-22-4180
  - 6 ヘルコーヒー 自家焙煎・弁天清水(天然湧水)使用 7:00~17:30 OL 日曜定休 ☎0267-22-0698
  - 7 停車場ガーデン カフェ 10:00~22:00 木曜定休、夜営業 月金土 ☎0267-24-2525
- 山城館(懐古園内 本丸跡) 山菜そば、ぶっかけそば 不定休 冬季閉店 11:00~13:00 ☎0267-22-0415

## まち歩き・旅の体験の案内

- 小諸観光の情報サイト: <http://www.komoro-tour.jp>
- 小諸市観光案内所(小諸駅構内) 9:00~17:00(4月~11月) 9:30~16:30(12月~3月) 年末年始12月29日~1月3日は休業 ☎0267-22-0568  
わからないことお聞きください。ご案内します。宿泊のご案内・ご予約(手数料無料)いたします。  
※レンタル自転車あります(有料・要問い合わせ)
  - (一社)こもろ観光局 小諸観光交流館内 9:00~17:00 ☎0267-22-1234  
観光にかかわる情報発信の拠点です。小諸での体験ツアー企画、城下町でできる体験をご案内します。
  - こもろ観光ガイド協会 グループ対象。4日前までに予約。問い合わせ・予約 ☎0267-22-0568  
まちなかの歴史、文学、史跡をわかりやすくガイドいたします。各2時間以内。  
小諸城址懐古園コース(無料)、北国街道小諸宿、そのテーマ別のコース(有料)があります。
  - 人力車観光ガイド「こもろ轟屋」 ご予約・お問い合わせ: 直通 ☎080-4671-1068  
小諸城址「懐古園」や北国街道「小諸宿」を人力車でご案内。人力車2人乗り・2000円~。

## 歴史・文化関連施設

- (小) = 小中学生料金
- 小諸城址 懐古園(かいこえん) \*市の名勝/無休(12月~3月中旬は水曜定休) 事務所 ☎0267-22-0296  
散策のみの入園料300円(小)100円/下記施設見学込み入園料500円(小)200円  
入園料が必要な 9:00~17:00 以外は散策自由(下記施設には入れません)
- 小山敬三美術館 22-3428/小諸出身の世界的な画家・小山敬三の描いた、雄大な浅間山などの作品を展示。村野藤吾の設計した建物も美しい。茅ヶ崎のアトリエを移設した記念館を併設。
  - 藤村記念館 22-1130/藤村関連の展示。谷口吉郎の設計による、簡素で情緒ある建物。
  - 小諸義塾記念館 24-0985/島崎藤村が教鞭をとっていた学校。
  - 徴古館 23-6419/小諸城および歴代城主にゆかりのある史料、遺品を展示しています。
  - 停車場ガーデン ショップ/木曜定休 9:00~18:00 ☎0267-24-2525  
ランチ&カフェ。地元の特産品、焼き菓子、花苗、絵ハガキ、苗の販売。小諸の地図、情報も提供。
  - 小諸宿・本陣主屋/開館4月中旬~11月3日 木曜定休 9:00~16:00 ☎0267-24-7788  
小諸城下町、北国街道の歴史展示。手仕事ギャラリー、おもてなしカフェ。\*表面参照
  - 高浜虚子記念館/水曜定休 9:00~17:00 ☎0267-26-3010 入館料 大人300円 \*表面参照
  - 水明楼(すいめいろう) ☎0267-22-1511(中棚荘)/小諸義塾の塾長・木村熊二の書斎。島崎藤村、丸山晩霞、三宅克己らと夜遅くまで語り合った場所。千曲川に近い旅館・中棚荘内。入館無料。

## 坂のまちの歩き方 ② 安らぎの寺と神社



光岳寺 こうがくじ

徳川家康の母の「お大の方」をとむらうために、ひ孫にあたる小諸城主・松平憲良が一六二四年に建立。その後の城主・牧野家も、明治になり同寺に菩提寺を移したため、本堂の屋根には、徳川、松平、牧野の三つの家紋が掲げられている。本堂には、お大の方の位牌が祀られている。境内には、明治時代の能楽師の日向吉次郎碑、松井稲荷神社などがある。昭和初期までは、境内にあった神社の成田山の毎月末の市で、本町通りは大いに賑わったという。現在は、成田山は廃社となり建物は無い。



山門は、小諸城下ではひとつしかない二階建ての立派な楼門。本堂とともに、江戸中期の建物。



惣門は、両側の控え柱に切妻屋根を乗せた高麗門の形式。明和2年に小諸城内の足柄門として造られたが、明治の初めにここに移築された。

戦国時代の一五四四年に開山、二代将軍・徳川秀忠が、関ヶ原に向う道を真田昌幸の抵抗にあつて小諸に足留めされた折、海応院住職が間にあって和睦が成立。将軍は礼として「下馬札」などの品を賜り、これらは今も本堂に展示されている。下馬札ゆえに、参勤交代の大名は駕籠や馬から降りて寺の前を通ったという。参道には、この寺で発見された天然記念物のコモロスマレが咲く。境内の樹齢三百八十年の「潜龍(せんりゅう)の松」も見もの。



コモロスマレ 濃い紫の八重の花。海応院境内で発見された。



将軍から賜った「下馬札」

海応院 かいおういん

8 結城屋 (江戸後期)

江戸時代の深い軒と開け放たれた格子戸が、昔の商家の風情を伝える。店の奥の坪庭、明かりとりの天窓、箱階段などのコンパクトな収まりが、町家の機能美を見せる。戦前には金庫、馬具、たばこ、荒物、履物など、戦後には下駄、草履を中心に手広く商っていた。



9 ギャラリーつたや (大正後期)

江戸時代から昭和初期まで、商人宿としてたいそう繁盛した旅館「つたや」。道の拡幅で軒は切られているが、路地に続く塀が美しい。俳人の高浜虚子の常宿で、いごどとなく仲間を集め句会を催し、その時の作品が今も各部屋に飾られている。現在は、骨董や手づくり工芸品などの共同のギャラリーとなっている。



10 大塚味噌醤油店 (右の母屋/江戸後期)

店の創業は、明治二十年。母屋と並んで袖蔵があるのがこの建物の特徴で、母屋と蔵が二階でつながる。「醇良にして独特な風味」と賞された老舗の味を今に伝えている。蔵にかかけられた黒漆喰のこて細工の看板が、堂々として立派。

11 萬屋骨董店 (江戸後期)

小諸商人が力を合わせ明治十四年に銀行を設立、その後建てた社屋。黒漆喰仕上げの堂々たる土蔵造りで、一階から立ち上がったうだつなどからも商都の繁栄が窺われる。高い二階、入口や内部のハイカラな意匠は、時代の息吹を感じさせる。



12 そば七 (江戸後期)

小諸宿の本陣代として建てられ、参勤交代の藩の重臣なども泊まった。立派な向拝(貴人用の玄関の小屋根)が格式を表している。壊される予定だった建物を先代が借り、そば屋を創業。天井まで抜けた明かり取りのある店内は、いたるところにこだわりの見える。石臼曳きの手打ちそば



13 塩川五右衛門 (江戸後期・一七四十年頃)

江戸中期の本町庄屋屋敷。江戸中期の大洪水で流出し、再建以降に、庄屋と問屋を務める家。建物は、天井の低い厨子二階、中央が吹き抜けで天窓がついている。間口が十間もある大規模な町屋で、たくさんの方が住み込んで商いをしていた。



14 大塚本店 (江戸後期・一七九九年)

外部、内部ともに江戸時代の商家の形をよく留めた造り酒屋。大商家の特徴である二列に並んだ居室の間取りを持つ。昔は店は隣の空地にあり、この建物は住居専用だったが、昭和三年頃に店舗に改装。その時つけたシヨウウインドー、腰壁は当時としてはハイカラなものだったのだらう。離れは、昭和37年に建てられた。裏の馬場裏通りをはさんで酒蔵が並び、酒の販売もしている。「浅間獄」「献寿」などの有名な銘柄を持つ。



15 元大塚酒店 (大正時代)

大塚酒造の小売り部として、大正時代に建てられた建物。「角の大塚」と呼ばれ市民にも親しまれました。今でも酒屋だった時のなごりで、お酒の看板を掲げている。

18 山謙酒造 (江戸末期)

江戸中期創業の蔵元から建物を買い取り、山謙酒造として始業したは明治43年。切妻の大きな三角屋根の外観が印象的な建物で、昔のままの広い土間がある。通り土間は裏道まで通じ、路地をはさんで江戸時代の大きな酒蔵がある。今は酒蔵は使われていない。



17 那須野整骨院 (江戸後期)

江戸時代の姿をよく留める格子戸が美しい町家。明治時代は問屋だったという横から見ると、街道側から主屋、中庭、蔵が並び、典型的な町家の敷地使いがよくわかる。昔は、このような家が街道の両側にずつつながっていた。そして多くの家の中庭に、この家のような立派な松があった。



16 丁子庵 (明治十八年)

殺屋として造られた黒漆喰の漆喰の蔵造りの町家。総ケヤキ造りの店内は落ち着いた雰囲気、映画「男はつらいよ」の撮影にも使われた。店裏からの浅間山と町並みの眺望がすばらしい。4、11月無休 12月3月火・水曜定休



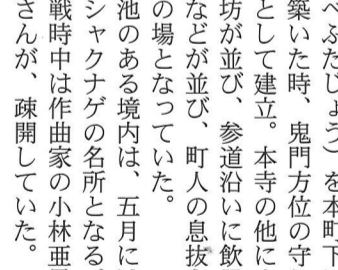
八幡神社 (じんじま)

江戸時代はじめに、小諸城主によりいくさの神として祀られた。本殿は当初の形がよく残されており、薄く流れるような曲線の屋根が美しい。境内大ケヤキが並び、四季の表情が豊か。四百年の歴史を持つ奉納相撲は、旧暦の八月朔日(ついたち)に行うので「八朔(はつさく)相撲」と呼ばれている。現在は九月第一日曜日に開催。江戸のスーパースター力士「雷電為右衛門」も子どものころ、隣町から腕試しに来たという。



成就寺 (じょうじゆじ)

戦国時代の一五〇四年、大井伊賀守光忠が鍋蓋城(なべふたじょう)を本町下に築いた時、鬼門方位の守りとして建立。本寺の他に六坊が並び、参道沿いに飲屋などが並び、町人の息抜き場となっていた。池のある境内は、五月にはシヤクナゲの名所となる。戦時中は作曲家の小林亜星さんが、疎開していた。



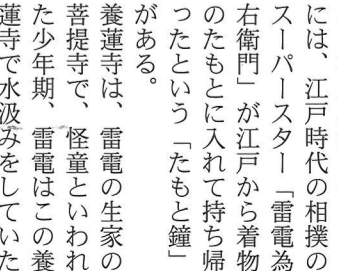
健速神社 (たけはやしんじや)

神社が今の場所に移ったのは江戸初期の一六七五年。天を被うようなケヤキのご神木が目印。毎年七月中旬の日曜日に開催する祇園祭は、小諸で最も賑やかな祭。神輿が境内を練つてから参道の階段を下っていく様子は、勇壮で荒々しい。



雷電のたもと鐘

養蓮寺は、戦国時代のはじめの一四九三年に開かれた浄土真宗の寺。ここには、江戸時代の相撲のスーパースター「雷電為右衛門」が江戸から着物のたもとに入れて持ち帰ったという「たもと鐘」がある。



雷電為右衛門

長勝寺 (ちやうしょうじ)

江戸時代から庶民の信仰を集めた素朴な寺で、境内には江戸時代の飢饉に備えた郷倉や、大小のお堂が建つ。薬師堂(本堂右)の毎月縁日には、病気の治癒祈願の人で大変賑わった。参道の与良蛭子(えびす)神社の春と秋のえびす講の縁日は、今も変わらず賑わっている。



代表的な伝統建築  
伝統建築を活かした食事処  
おすすめの寺社  
藤村ゆかりの場所

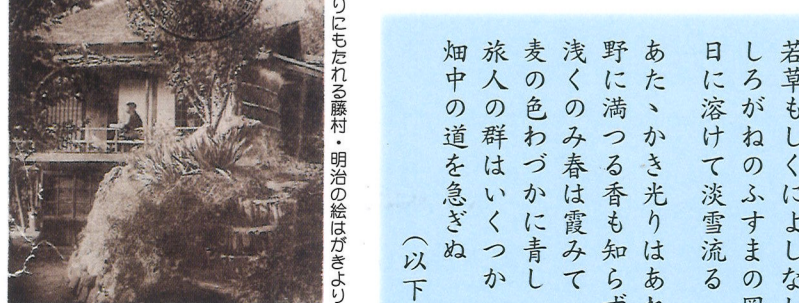


坂の町の歩き方 ③ 島崎藤村の愛した美しい坂の町

實際私が小諸に行って、餓え乾いた旅人のように山を望んだ朝から、あの白雪の残った遠い山々、浅間、牙歯のような山続きの崩壊の跡、それから淡い煙のような山嶺の雲の群れ、すべてそれらのものが朝の光を帯びて私の眼に映った時から、私はもう以前の自分ではないような気がしました。何となく私の内部には別のものが始まったような気がしました。



小諸義塾記念館 教育者で牧師であった木村熊二が明治26年に開設した、義塾の建物を移築復元した記念館。



水明楼 (旅館・中棚荘内) 木村熊二の書斎。藤村も、ここからの千曲川の眺望を愛した。



島崎藤村は、日本の自然主義文学を完成させた詩人であり小説家。木曾に生まれ東京の大学を出たが、明治三十二年に、旧師木村熊二の招きで小諸義塾に英語・国語教師として赴任した。同年冬子と結婚、翌年長女緑が誕生。明治三十八年に小諸義塾を退職するまで、六年間を小諸で過ごした。滞在中に書きためた散文「千曲川のスケッチ」には、美しい風景や素朴な人々とのふれあいなどが描かれた。また、詩集「落梅集」の「小諸なる古城のほとり」は日本中で愛され「小諸」の名を有名にした。

千曲川旅情の歌 小諸なる古城のほとり 雲白く遊子悲しむ 緑なすはこべは萌えず 若草もしくによしなし しろがねのふすまの岡辺 日に溶けて淡雪流る あた、かき光りはあれど 野に満つる香も知らず 浅くのみ春は霞みて 麦の色わづかに青し 旅人の群はいくつか 畑中の道を急ぎぬ (以下略)